

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	伊丹市立伊丹特別支援学校 職・氏名 教諭 渡邊 真美	研究チーム名 (音楽療法研究会)
-----------------	-------------------------------	-----------------------

研究テーマ分類番号 (1 7)

(1) 研究テーマ	
音楽療法の理論を背景とした音楽での関わりを学ぶ	
(2) 研究経過及び具体的な取組	
第1回	<p>10月29日(土) 今年度の計画検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の紹介(所属学校、担当教科、研究会で学びたいことなど)と、情報交換(勤務校の状況、対象児童生徒の様子、教育課程) 肢体不自由特別支援学校、知的障がい特別支援学校在籍の教師が15名登録している。児童生徒数、児童生徒の実態、楽器の種類や数、教室の広さ、関わる教師の数などによって各校の授業の様子が違った。 研究テーマと内容についての検討(学びたいこと・取り組みたいこと) 教師によって研究会に求める内容も様々であり、教材研究、音楽療法的な内容を取り入れた授業、楽器の使い方、重度の児童生徒への関わり方などがあげられた。特に打楽器の奏法についての研修の希望が多くあり、今年度も実技研修として行うことになった。 重度の子どもへの関わりについて意見交換 自発的な動きが小さく他者に動きが見えにくい子どもの演奏活動について意見交換を行った。A校では、同じ生徒に対しても関わる教師によってめざす生徒像に違いがあった。楽器を演奏するという活動についても目的が違えば関わり方も違うことなど、生徒にとって良いと思われる関わり方について参加者から様々な意見を聞くことができた。
第2回	<p>11月20日(日) 実技研修(講師 神戸市立須磨翔風高等学校教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> 和太鼓の実践 子どもたちに太鼓のリズムを伝える方法について学んだ。画用紙にお菓子の絵を並べて貼り、お菓子の名前をいながら和太鼓のリズム打ちをした。次に平太鼓の地打ちを入れ、平太鼓の叩く音に合わせて上打ちを行った。また、和太鼓を横に置いたときの叩き方、和太鼓を地においたときの叩き方を習い実践した。1台の和太鼓で4人が同時に演奏し、順番に抜けていったり、入ったりする場合の演奏についても学んだ。複数で演奏する場合の開始の合図や、結びの合図に関する練習も行った。質疑応答では和太鼓の選び方、扱い方、バチの選び方、和太鼓以外の太鼓(邦楽に使える)についての質問があった。今回の実技研修で学んだことをそれぞれの学校で実践したいという参加者が多かった。